

第3学年 英語科 学習指導案

日 時 令和4年11月29日 (火)

1 単元名 PROGRAM7 Is AI a Friend or an Enemy? (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3)

2 単元について

本単元では、仮定法のうち基本的な表現を用いた文を正しく読み取ることができること、さらに仮定法を用いて表現したり、適切に応答したりできることを目指している。仮定法は、今回の学習指導要領の改訂で新たに追加された指導事項である。従来、言語活動において、現実にはない仮定や想定を話したり書いたりする場面では、直説法の条件文を用いて表現することが多かったが、仮定法が追加されたことにより、正しい文法事項を用いて表現できるようになった。自分の考えや気持ちを述べる場面において、仮定法を用いることで、より一層充実した言語活動が行えるようにしたい。

題材は人工知能 AI (artificial intelligence) についての説明文で、具体的には、AI が搭載されたロボット掃除機、コンピュータ将棋プログラム「ポナンザ」等、飛躍的に進化を遂げている AI 技術の優れた点や、医療分野における AI の良い点と悪い点などについて紹介されている。生徒達が大人になる頃には、今以上に AI が身近なものとなり、AI と共存していく時代になるのは間違いないだろう。しかし、人工知能がどれだけ進化し思考できるようになったとしても、その思考の目的を与えたり、目的の良さ・正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みでもある。AI の現状と可能性についてじっくりと考え、表現させることを通して、事実や考え、気持ちなどをまとまりのある文章で表現できる力を養う。

3 生徒の実態について

本学級の生徒は、小学校在学時に英語でコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を培ってきた。中学校第1学年から、コミュニケーションの目的や場面、状況等を考慮して、自分の思いや考えを適切な言語材料を活用し、思考・判断して情報を整理しながら表現できるように指導してきた。その結果、生徒の英語への意欲は高く、お互いに助け合いながら、最後まであきらめずに活動に取り組む姿が見られる。10月に実施した意識調査の結果によると、7割以上の生徒が「英語が好き」または「どちらかというが好き」と答えている。好きな理由としては、「友達などに英語で自分の気持ちを伝えられた時に嬉しく感じる」「英語で話すのが楽しい」「英語の文章が読めたときにとても嬉しい」など、実際に英語で話したり読んだりする中で、英語を学習する楽しさを実感している生徒が多いことが分かる。

また、前述の意識調査の結果によると、4技能5領域の中では、「聞くこと」を得意と感じている生徒が約4割いる一方で、「話すこと(発表)」「書くこと」を得意と感じている生徒は、1割にも満たなかった。令和4年度の埼玉県学力・学習状況調査の結果を見ても、書くことの正答率は他の領域に比べて低くなっている。特に、「メモに基づいて予定について説明する英文を書く問題」「音声メッセージを聞いて、自らの状況についてたずねる質問に対する答えを書く問題」においては、どちらも正答率が()%、無回答率がそれぞれ()%、()%という結果であった。語や文法事項等を正しく理解して書くことに課題があるとともに、無回答率の高さから、自分の考えや気持ちを英語でどのように表現したらよいか分からず、回答すること自体を諦めてしまっている生徒が多いことが分かる。

そこで、授業の中においては、グループワークやペア活動を通して学び合う機会を多く設定するとともに、英語室の生徒用学習机を通年でコの字型に配置し、教員対生徒だけではなく、生徒同士で学び合うという意識を高めていく。また、本単元においては、教科書をしっかり読み取らせ、本文をモデルとして英語で表現する仕方について考えさせたい。さらに、メモ程度のキーワードを見ながらまとまりのある英文を話す練習を重ねたうえで、最終的には書く活動へとつなげていくなど、段階を追って内容を膨らませ、言語面と内容面の両方について共有する活動を授業の中で展開し、事実や考え、気持ちなどをまとまりのある文章で表現できる力を養っていく。

4 指導観

英語で自分の考えや気持ちが表現できるようになることを目指して、3年生の4月からリテリングの活動を取り入れている。リテリングは、読んだ内容を自分の言葉で話す活動で、英語を理解する能力と表現する能力が求められる。読んだ内容について話したり書いたりするなど、技能を統合的に活用させる活動を授業の中に積極的に取り入れることで、教科書本文の内容理解や音読のみよりも、生徒のインプットへの意識が高まり、既習表現をより積極的に活用する態度を育むことにつながると考えている。前述の意識調査の結果によると、リテリングの活動を通して、9割近くの生徒が英語で表現する力がついてきたと感じている。また、本文の内容を一方的に伝えるだけではなく、自分の意見や感想を加えたり、聞き手とやりとりしたりすることによって、生徒はお互いの考えなどを知ることができ、事実や意見などを多様な観点から考察する力を養うことや、共に学ぶという情緒面でのよい働きかけにもなる。また、リテリングを通して自分が表現したいことを正しく表現できないことに気付くと、改めて教科書の表現の定着に努めたり、内容を深く理解したりしようとする。このようなサイクルを通して、粘り強く学習に取り組む姿勢や、主体的に学習に取り組む態度についても育むことができると考えている。

本単元においても、既習の表現などを駆使しながら、社会的な話題（AIの現状と可能性）に関して他者に伝える活動を通して、自分自身の考えや気持ちを理由などとともに話して伝える力を高め、将来においても社会や世界、他者との関わりの中での幅広い話題について自分自身の立場や考えを適切に表現する力を養っていきたい。

5 研修課題との関連

令和4年度 研修課題

「確かな学力の向上と人間性豊かな生徒の育成」～全教科・領域を通じた授業改善～
本研修課題を受け、英語の授業においては、次のようなことを意識して授業を展開している。

(1) 目標の提示と振り返りの時間の確保

本時の目標を明確にし、生徒が取り組みたいという必要感がもてる学習課題を設定・提示し、生徒一人一人がその授業の中で「何を学ぶのか」を意識しながら授業に臨めるようにする。また、生徒に変容を実感させ、その伸びを見取るために、学習活動を振り返る場を設定する。それにより、生徒が自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤し、自らの学習を調整しながら学ぼうとする力や、粘り強く取り組む態度を育む。

(2) ICT機器の効果的な活用

教師が説明の場面においてICT機器を活用することに加え、生徒自身が活動する場面においても、積極的にICT機器を取り入れる。例えば、学習者用デジタル教科書の音読機能を活用したり、書く活動の場面において、コラボノートを活用したりすることで、英語が得意な生徒もスローラーナーも、それぞれのペースで学習することが可能となる。このように、一斉指導の中においても、個に応じた指導が行えるように、ICT機器の使用場面や使用方法を工夫していく。

(3) 目的に応じたペア学習、グループ学習等、学習形態の工夫

意図的にペアやグループでの活動を配置し、生徒がお互いの意見をシェアしたり、協力し合ったりすることを通して、自分自身の知識や考えを深めることができるように工夫していく。

また、生徒同士で学び合う場面において、活動の様子だけでなく、「何ができるようになったか」を評価し、良い点を取りあげて声掛けすることによって、生徒同士でもお互いを肯定的に認め合えるように導いていきたい。

これらの取組を継続して実践することにより、「主体的・対話的で深い学び」を充実させ、生徒の確かな学力の向上と人間性豊かな生徒の育成に努めていく。

6 単元の目標



友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために、社会的な話題（人工知能：AI）について書かれた文章を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことを、英文を引用したり内容に言及したりしながら伝え合うことができる。

- ・仮定法のうち基本的な表現を用いた文の特徴や決まりを理解し、仮定法などを用いて伝え合う技能を身に付けている。〈知識及び技能〉

- ・友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、AI に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合ったり書いたりしている。〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、AI に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合ったり書いたりしようとしている。〈学びに向かう力、人間性等〉

7 単元の評価規準

(本単元における「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [発表]」については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [やりとり] 	[知識] ①仮定法のうち基本的な表現を用いた文の特徴や決まりを理解している。 [技能] ②相手の立場だったらすることや、自分の願望について仮定法などを用いて伝え合う技能を身に付けている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、AI に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合っている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、AI に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合おうとしている。
書くこと 	[知識] ①仮定法のうち基本的な表現を用いた文の特徴や決まりを理解している。 [技能] ②相手の立場だったらすることや、自分の願望について仮定法などを用いて伝え合う技能を身に付けている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、AI に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして書いている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、AI に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして書こうとしている。

8 単元の指導と評価の計画 (7時間扱い)

時	◆ねらい ○活動	評価			
		知・技	思・判・表	態	◎評価規準<評価方法>
1	◆単元の目標を理解する。 ◆仮定法過去 (be 動詞・一般動詞) を用いた文のきまりや特徴を理解する。				本単元において、第1・2時、第4～6時は記録に残す評価は行わないが、指導に生かす見取りは毎時間行う。
	○「もしだれかが～だったら」、「もしだれかが～したら」と仮定したことについて、話したり書いたりする。 ・ If I were a bird, I would fly to many places. ・ If I had one million yen, I would travel around Japan.				
2	◆<I wish + 主語 + 仮定法過去>を用いた文のきまりや特徴を理解する。				
	○「～だったらよかったのに」と自分の願望などについて、話したり書いたりする。 ・ I wish I could talk with Oda Nobunaga.				

3	<p>◆仮定法のきまりや特徴について整理する。</p> <p>○仮定法が使われた教科書とは別の短い英文を読み、構造や意味を整理する。</p> <p>○仮定法を使ってALTと簡単なやりとりをする。</p> <p>○アウトプットを意識したワークシートを行う。</p>	や	書		<p>◎仮定法の意味や働きを理解している。</p> <p><ワークシート分析></p> <p>◎登場人物や自分の願望などについて、仮定法などを用いて伝え合う技能を身に付けている。</p> <p><観察及びワークシート分析></p>
4	<p>◆教科書の英文全体を通して聞き、概要をとらえる。</p> <p>◆Think 1の英文を読み、読み取れた内容に関する自分の考えや感じたことなどを伝え合う。</p> <p>○教科書の英文を読み、ロボット掃除機の特徴などについて読み取る。</p> <p>○読み取れた内容に関して、英文を引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。</p>				<p><3時間目に定着を図れなかった生徒への手立てや工夫></p>
5	<p>◆Think 2の英文を読み、読み取れた内容に関する自分の考えや感じたことなどを伝え合う。</p> <p>○教科書を読み、コンピュータ将棋プログラム「ポナンザ」の特徴などについて読み取る。</p> <p>○読み取れた内容に関して、英文を引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。</p>				<p>第4～7時の帯活動において仮定法を使用する言語場面を設定した会話活動を継続して実施し、言語の使用場面や使用方法について繰り返し触れることで、知識・技能の定着を図る。</p>
6	<p>◆Think 3の英文を読み、読み取れた内容に関する自分の考えや感じたことなどを伝え合う。</p> <p>○医療分野におけるAIの良い点と悪い点などについて読み取る。</p> <p>○読み取れた内容に関して、英文を引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。</p>				
7 本時	<p>◆教科書の英文を参考にしながら、AIの現状と可能性について自分の考えや感じたことなどを伝え合う。</p> <p>○教師とのやり取りを通じて、本文の内容を整理する。</p> <p>○AIの現状や可能性について、絵や写真を相手に示しながら、簡単な語句や文を用いてペアの相手と伝え合う。</p>	や	や		<p>◎AIに関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合っている。</p> <p><観察及び録画データ分析></p>
後日	ペーパーテスト	書	書	書	<p>◎仮定法のうち基本的な表現を用いた文の特徴や決まりを理解している。</p> <p>◎相手の立場だったらすることや、自分の願望について仮定法などを用いて伝え合う技能を身に付けている。</p> <p>◎AIに関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして書いている。</p>

9 本時の展開

(1) 目標

AI の現状と可能性について、考えたことや感じたことなどを、ペアの相手と伝え合うことができる。

(2) 展開

	○学習活動・学習内容	・指導上の留意点 ◎評価<方法>
導 入 10 分	<p>○あいさつ</p> <p>○即興チャット 『もし、どこにでも行ける券を持っていたら、どこへ行く?』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JET と ALT のやり取りを、自分のチャットで使える表現や話題がないかを考えながら聞く。 ・ALT とやり取りをしながら、自分だったらどこへ行きたいかについて表現する。 ・ペアでテーマについて会話をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>予想される生徒の発話 A: If you had a ticket to go anywhere, where would you go to? B: If I had a ticket to go anywhere, I would go to the U.S.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・中間指導を受け、表現を広げる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><内容を充実させるため> Why do you want to go there? などを使って理由を聞いたり、相槌を打ったりしながら話題を深めていく。 <言語面を充実させるため> If I had a ticket to go anywhere, I <u>go</u> to Hawaii. ⇒If … , I <u>would go</u> to Hawaii.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアを変えて会話をする。 ・代表の生徒数名が発表する。 <p>○本時の目標を理解する。</p>	<p>・生徒の活動のモデルとなるように表現等を工夫する。</p> <p>・数名の生徒と同様のやり取りを行い、インプットを充実させることで次のペア活動に生かす。</p> <p>・帯活動において、既習表現を活用した会話活動を取り入れることで、スローラーナーが復習する機会を意図的に設定し、言語の使用場面や使用方法について繰り返し触れることで、知識・技能の定着を図る。</p> <p>・内容面・言語面に対してフィードバックして流暢さと正確さの両面にアプローチする。</p> <p>・スローラーナーが理解しやすいように、英文を画面に表示する。</p> <p>・中間指導が効果的であったか、注視する。</p> <p>・フィードバックを行い、次回の活動へつなげる。</p> <p>・評価については、次回のペーパーテストで行う。</p> <p>・課題と目標を分かりやすく提示する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> AI の現状や可能性について、考えたことや感じたことなどを伝え合おう！ </div>		

展 開 35 分	<p>○本文の内容についての Q&A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Think1~3 の本文の内容について、ALT と簡単な英語でやりとりをしながら、振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ALT とやりとりした表現が、本時のリテリングで活用できるような表現になるように工夫する。
	<p>教師と生徒の対話例</p> <p>ALT: Why can the robot vacuum cleaner clean rooms of different shapes?</p> <p>Students: Because it has AI inside.</p> <p>ALT: …, so it remembers …?</p> <p>Students: It remembers the maps of the rooms.</p>	
	<p>○個人で練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の本文を参考にしながら、自分なりの表現でペアの相手に伝えられるように練習する。 <p>○ペアの相手と伝え合う。 <Retelling①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し手は教科書の写真や絵を相手に示しながら説明する。 ・ 聞き手は相槌を打ちながら聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真や絵だけで説明するのが難しい場合には、書き込んだキーワードを参考にしながら説明しても良いこととする。 ・ 分からない単語等は iPad を活用してもよいこととする。 ・ 単なる本文のリプロダクションではなく、相手に伝えるということを意識させる。 ・ 対話につまる生徒には、個々に例文を提示するなど、アドバイスする。
	<p>言語活動は「伝え合う」活動なので、一方的な発表ではなく、相手に質問したり答えたりする場面も入れる。</p> <p>予想される質問例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Do you want a robot vacuum cleaner? ・ Have you ever played shogi? 	
	<p>○代表生徒が発表する。</p> <p>○中間指導を受け、表現を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ よりよく相手に伝わるような工夫や改善点を発見する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表後は拍手をするなどして、称賛する。 ・ 良い表現を紹介したり、多い間違いを修正したりすることで、活動の効果を上げる。
	<p>中間指導の例</p> <p><良い表現例></p> <p>AI makes our lives more convenient. For example, in the medical field, AI may find diseases like cancer better and faster than humans. However, AI may not understand patients' feelings. So, we should know both the good and bad points of AI.</p> <p><改善すべき例></p> <p>*AI use I think good. Robot vacuum cleaners have AI. Ponanza beat a shogi expert. Human doctors may lose their jobs. (*は不完全な文であることを表す)</p> <p><言語面を充実させるため></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I think good. ⇒I think AI is good. ※I think 主語+動詞 ・ 文の羅列 ⇒First, Second, So, For example などの接続詞の活用 <p>☆ 1 回目の中間指導では言語面に焦点を当てて指導する。</p>	

- 新しいペアの相手と伝え合う。＜Retelling②＞
 - ・話し手は中間指導で受けたことを意識しながら説明する。
 - ・聞き手は相槌を打ちながら聞く。
- 代表生徒が発表する。
- 中間指導を受け、表現を広げる。
 - ・よりよく相手に伝わるような工夫や改善点を発見する。

- ・中間指導が効果的であったか、注視する。
- ・発表後は拍手をするなどして、称賛する。
- ・中間指導を2回行うことで、段階を追って少しずつレベルアップしていけるように支援する。

中間指導の例
 ＜内容面を充実させるため＞

○話し手は自分の意見や立場、その理由も伝える。

- ・Think1,2については、Retelling②で話した内容を、よりスムーズに伝えられるようにする。
- ・Think3については、本文の内容を単に伝えるだけではなく、自分の意見や立場を明確にした上で、その理由も伝えることで、より自分事として捉えられるようにする。なお、理由については、自分なりの考えを伝えても、教科書の表現を活用しても良いこととする。

I think AI is good. It's because AI makes our lives more convenient.
 I think AI is not good. It's because human doctors may lose their jobs.

○聞き手は話し手の意見に対してリアクションを入れ、その理由も伝える。

I think so, too. / I don't think so. / I agree with you. / I don't agree with you.
 It's because

- 新しいペアの相手と伝え合う。＜Retelling③＞
 - ・話し手は中間指導で受けたことを意識し、自分の意見を入れながら説明する。
 - ・聞き手は話し手の意見に対するリアクションを入れ、その理由も伝える。
 - ・話している様子を学習者用 iPad で録画する。

- ◎AI に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合っている。また、伝え合おうとしている。
- ＜観察および録画データ分析＞

録画したデータは授業後にグーグルクラスルームに提出し、評価資料とする。すぐれたやりとりについては、次回の授業で紹介する。

- 代表生徒が発表する。
- リテリングでペアの相手に話した内容や、AI に関して考えたことや感じたことなどを書く。
 - ・ペアの相手に話したことや代表の生徒の発表を参考にしながら、5文程度の英文を iPad のコラボノートに入力する。

- ・他の生徒の発表を聞くことによって、互いに学び合ったり、高め合ったりしていこうとする関係を育む。
- ・話したことを基に、自分の言葉で書いてまとめることで、学びを深めさせる。
- ・評価については、次回のペーパーテストで行う。

＜まとまりのある英文を書くため＞

- ・1文目には自分の考えや感じたこと、2文目以降にはその理由を書く。

I think AI is ～. It's because...

- ・接続詞を効果的に活用する。

	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを入力できた生徒は、他の生徒の意見を読み、コメントを書き込む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 入力された内容については、次回の授業の最初に、振り返り・復習を行う。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> スローラーナーには他の生徒の英文を参考にさせながら書かせ、早く書き終わった生徒には他の生徒の英文を読ませることで自分の意見を深めさせる。
ま と め 5 分	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめ <ul style="list-style-type: none"> 入力された英文の中からいくつかの表現を全体で共有し、自分の考えを書く際に参考となる表現を学ぶ。 ○振り返り <ul style="list-style-type: none"> 本時の授業を振り返って学んだことを書く。 伝えたかったが伝えられなかった表現を書く。 <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> 生徒の振り返りから、生徒がもっと学びたいと思っていることや、分かったこと、分からなかったこと、生徒の学び方の良い点等を把握するとともに、生徒の学習の様子を振り返り、その結果を授業改善等の取組につなげる。また、良い例はクラス全体で共有し、振り返りの支援や学習方法のヒントとする等、生徒が自らの学習を振り返り、学習改善につなげられるように支援する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○次回の予告 ○あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が書いた英文の中からいくつか取り上げ、良い表現を紹介したり、多い間違いを修正したりすることで、次回の活動へつなげる。 AI に関して考えたことや感じたことなどを、自分なりに工夫してペアの相手に伝えられたかという視点で、振り返りカードに書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> 次回の授業への意欲を高める。

○ペーパーテストの例

知識・技能を評価する問題

問題例① (主に「知識」を評価する問題)

以下は学校の帰り道での A と B のやり取りです。対話の流れに合うように、() 内の語を適切な形に変えて書きなさい。

A: Look! We can see the rainbow in the sky.

B: Wow! It's so beautiful. We should take a picture.

A: Yes, but I don't have a camera now. I wish I (have) a camera with me.

(ア) 採点の基準

仮定法の特徴やきまりを理解しているもの。 (正答) had	○
仮定法の特徴やきまりを理解していないもの。 (誤答例) having / has / will have	×

(イ) 本問題の特徴

- 文脈を伴う問題である。問うている箇所 I (have) a camera with me. だけに注目していても正解を導き出すことはできず、文脈から正解を導き出すことができるか否かを問うている。

問題例② (主に「技能」を評価する問題)

以下は学校の休み時間の A と B のやり取りです。対話の流れに合うように、() 内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英語を完成させなさい。

A: Did something good happen? You look happy.

B: Yes. My grandparents gave me some money.

A: That's nice. (I am you), I would buy a new bag.

(ア) 採点の基準

仮定法の特徴やきまりを理解して正確に書いているもの。または、大文字・小文字の書き分けや綴り等に誤りがあるがコミュニケーションに支障がないもの。 (正答) If I were you / if I were you	○
仮定法の特徴やきまりを理解せず正確に書いていないもの。 (誤答例) If I am you / If I will be you / I were you	×

(イ) 本問題の特徴

- 実際のコミュニケーションの場面を設定しつつ、特定の言語材料の使用(文の生成)を求める問題である。実際のコミュニケーションの場面をつくるとともに、対話文の文脈から仮定法を使用する必然性を持たせている。

思考・判断・表現を評価する問題

AI (人工知能) に興味を持っている ALT が、生徒たちは AI に関してどう考えたり感じたりしているのか知りたいと思っています。そこで、次の英文を読んで、あなたの考えを、[条件] に従って 40 字～50 字程度の英語で書きなさい。

AI has been developing at an unbelievable speed. AI products will change our lives in the future. It is easy for us to get better lives with AI. Some people wish AI would do everything for them. What do you think about this idea?

[条件]

賛成か反対か自分の立場を明らかにして、その理由が伝わるように書きなさい。

(ア) 採点の基準

上記の課題を解決するには、次の①～③の条件を満たすことが必要であると考えられる。これらの条件に照らし合わせ、下のように採点の基準を設定し評価することが考えられる。

<条件>

- ① 賛成か反対かの立場を明らかにしている。
- ② 賛成や反対の理由を述べている。
- ③ 英文を引用したり、自分の考えたことや感じたことなどを書いたりしている。

	「思考・判断・表現」
条件①、②、③を満たし、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがない英語で書いているもの。	a
条件①ともう一つの条件を満たし、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがない英語で書いているもの。	b
「b」を満たしていないもの。	c

(イ) 本問題の特徴

- ・目的や状況、場面を明確に設定し、単元を通して学習してきた題材を踏まえて内容を問う問題である。
- ・当該単元で扱った言語材料を必ず使用しなければならないわけではなく、課題を解決するためにコミュニケーションに支障をきたさない英語で書かれているかを問う問題である。